

出展者各位

ジャパンインターナショナルボートショー2011 終了のご報告  
3月3日(木)~6日(日)/パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

## 約4万3千名が国内最大級のマリンイベントに来場しました

出展者皆様のご協力のもと、社団法人日本舟艇工業会が、2011年3月3日(木)から6日(日)までの4日間にわたり、パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)において開催しました『ジャパンインターナショナルボートショー2011』(第50回)は、天候にも恵まれ昨年来場者を約5千人上回る43,240名のご来場者をお迎えし、無事終了しました(日別一覧は次頁ご参照)。

パシフィコ横浜の屋内展示ホールと屋外展示会場に、163社・団体が2011年ニューモデルなど多種多様なボート、ヨット、水上オートバイ等198隻を出展しました。マリンレジャーの魅力と最新情報をお伝えするとともに、ボートショー開催50回記念プログラムとして、さまざまなイベントプログラムを実施しました。

ボートショー開催50回記念として中学生以下を対象に行った「みらいの海の乗り物 絵画とアイデアコンテスト」には655作品が寄せられました。ボートショー公式ポスターの作家でもあるマリンイラストレーターの<sup>ただみ</sup>Tadami氏を中心に審査し、「ボートショー50回記念賞」等を選考。アースマラソンを完結させたばかりの間寛平さんに「間寛平賞」を選んでいただきました。寛平さんは3日の開会式式典とトークショーに登場、4日には「若大将」加山雄三氏が友情出演としてTadami氏とステージに登場し、平日にもかかわらず館内は熱気に包まれました。

また、釣りガールとして注目の<sup>いしざきみちえ</sup>石崎理絵さんとふくだあかりさんのボートフィッシングの魅力伝えるステージ、さらに主催者企画の「マリンパラダイスコーナー」では、「体験してみよう」と「見てみよう」の二つのゾーンを設け、添畑薫氏、後藤孝昭氏の海の写真展や、「海楽習」というタイトルのもと、ウォーターセーフティニッポンやビーチクラブ全国ネットワーク、ヤマハ発動機等が、ヨット操船シミュレーション、シーカヤック体験、ボート工作、貝殻キャンドル創作等多彩なプログラムを実施し、家族連れを中心に延べ約4,000名の方が参加されました。

いっぽう臨港パークでは横浜港ボート天国のご協力で、マリンスポーツ財団主管の「マリンスポーツフェスタ」を行い、ジェットスポーツの迫力ある演技に散歩や観光に訪れた方々も思わず見入って拍手を送っていました。

なお2013年に日本で視覚障害者ヨットの世界選手権を開催するNPO法人日本視覚障害者セーリング協会のPRに協力し、当初、同協会に寄贈の予定であった、マリンチャリティオークションの売上金(約26万円)は、日本赤十字社を通じて同協会と当工業会の連名で震災に見舞われたニュージーランドに義援金として送ることとなりました。



## ご来場者数

	来場者数 (カッコ内は昨年)	累 計
3月3日(木)	6,036名 (4,886)	
3月4日(金)	6,635名 (6,985)	12,671名 (11,871)
3月5日(土)	13,342名 (11,863)	26,013名 (23,734)
3月6日(日)	17,227名 (14,146)	43,240名 (37,880)

## 出展者/展示マリンプロダクツ

163社・団体 / 198艇

展示プロダクツの内訳			
ボート	9社	41艇	
ヨット	10社	21艇	
水上オートバイ	6社	52台	
スモールボート	6社	44隻	
カヌー	9社	40隻	



間寛平さんもお招きしての3月3日の開会式



メイン会場(パシフィコ横浜)全景



屋外展示会場には全長15.10mを最大に8隻を展示



サプライズで登場の加山雄三さんのトークショーには立ち見もできるほどの盛況でした

< 本件に関するお問い合わせ >

社団法人日本舟艇工業会 担当:久保 TEL:03-3567-6707